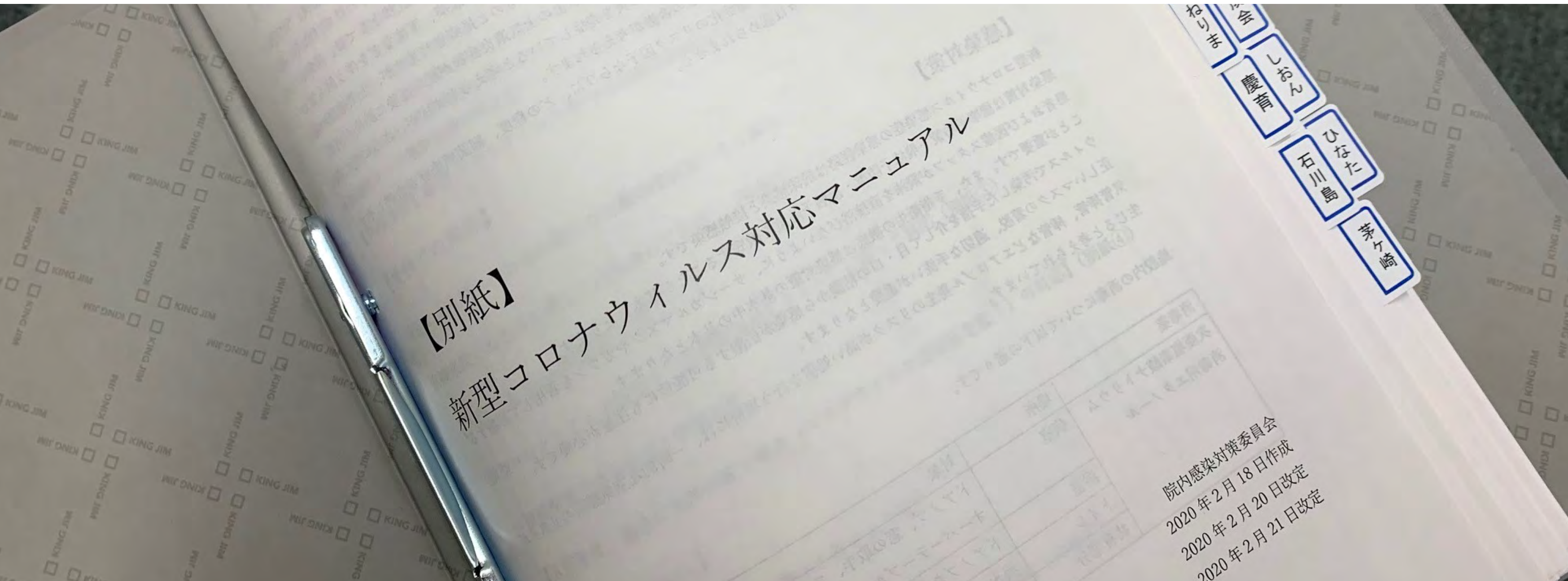


## 健育会グループの新型コロナウイルス対策について。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



連日報道されているとおり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者数が増加の一途を辿っています。今後、健育会グループの病院・施設でも、感染者が発生する可能性があります。そこで今回は、グループ内における新型コロナウイルス対策について述べたいと思います。

3月に入ってから国内の感染者数が1日に50人以上増える日もあり、大変厳しい状況になっていると言わざるを得ません。3月11日には、世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長が「新型コロナウイルスはパンデミック（世界的な大流行）と言える」との認識を示しており、長期戦になることが予想されます。こうした状況に対して我々は、決して報道に踊らされることなく、やるべきことを冷静にしっかりやることが何よりも大切です。

新型コロナウイルスは、ウイルス性の風邪の一種で発熱やのどの痛み・咳が長引き、強いだるさを訴える方が多く、潜伏期間が長いことが特徴です。一方で、毒性はそれほど強くないため、多くの感染者は安静にして水分摂取を心掛けることで快復しています。ただ、現時点では治療薬が無いために、一般の人々の恐怖心につながっているという側面はあります。

まず我々が行うべき基本的な対策としては、周囲に感染者がいるかもしれないと考えると同時に、自分自身も考慮して、手洗いとマスクの着用を徹底することです。長期戦になると油断しがちですが、少なくとも2週間は国内で新たな感染者が発生しないという状況になるまで、続けてほしいと思います。



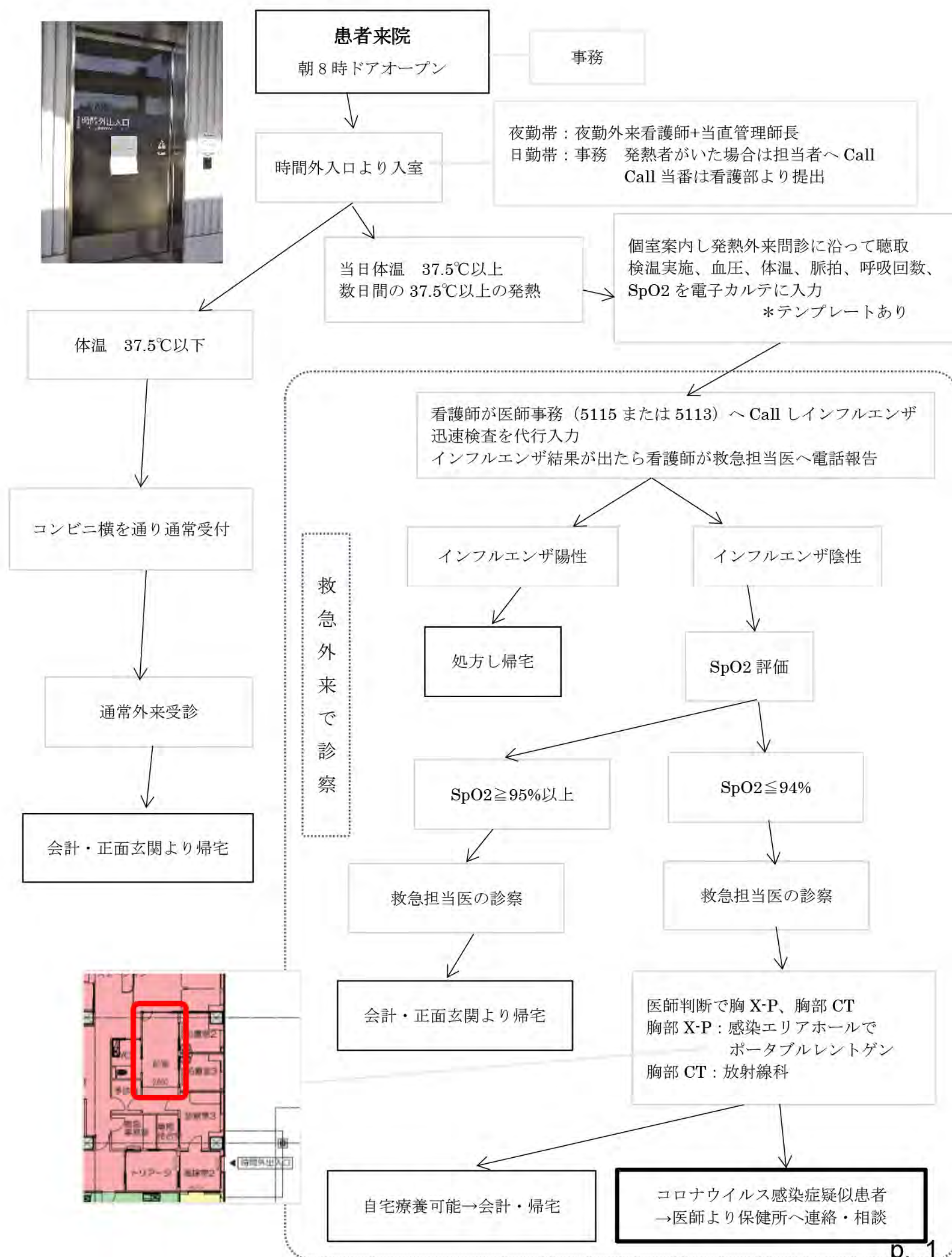
健育会グループの現状は、3月9日時点で、幸いなことに全病院・施設の外来・入院患者、通所・入所者、職員のいずれにも感染者は出ていません。竹川病院の外来患者と花川病院の入院患者に感染の疑いがある人が出ましたが、保健所に検査を要請したところ、当日中に保健所が検体を持って来院し、1～2日後には陰性であることが判明しています。

世界の国別の累計感染者数を見てみると、日本は17位（3月16日時点）です。日本の検査体制が整っていないことを考慮しても、諸外国に比べて日本の医療は十分に機能している状況だと考えています。報道では、不安をあおるような情報が大きく取り上げられ、診療を停止していた病院が再開したといった明るいニュースの扱いは小さくなっています。新型コロナウイルス感染症は、適切に対処すれば治る病気です。中には真偽が疑わしい情報などもあり、健育会グループ職員の皆さんは、報道を鵜呑みにせず、厚生労働省や保健所、グループ内から提供される情報を信じて、冷静に対応してください。

感染症対策という点では、新型コロナウイルスの対策はインフルエンザやノロウイルス対策といった、今までに我々がやってきたことの延長線上にあるものです。職員の役割は、基本的に「ウイルスを持ち込まない」「発生した場合は、拡大させず最小限に止める」ことです。その上で、地域の感染状況に合わせた強化対策を図っていく必要があります。グループ内では、全ての施設が、既に独自の新型コロナウイルス対策マニュアルを作成。それらは、厚生労働省の『新型コロナウイルス感染症について』や『高齢者介護施設における感染対策マニュアル改訂版』、一般社団法人日本環境感染学会などのウェブサイトを常に確認し、作成しています。

マニュアルのポイントは、「一般情報ではなく、自施設で実際にどのように対応するのか」「活用するものであり、形骸化させない」「第三者がわかる（暗黙の了解を文字にする）」という3点です。どの施設のマニュアルも丁寧に作成されていましたが、その中でもわかりやすく、注目したいマニュアルの一部を紹介します。まず、湘南慶育病院の「外来患者のフロー図」は、“わかりやすく具体的な内容”になっている好例です。

新型コロナウイルス対応の手順：外来患者



ケアポート板橋が作成した「職員の体調管理チェック」も、多くの高齢者が入所する老人ホームにとって大変重要なものです。

## ■施設所属全職員への対応として

不二健育会に属する全ての職員は、下記の対応を徹底して行うこととする。

### ① 出勤前の検温

自宅にて、出勤前に検温を実施。T=37.5℃以上の発熱があった場合には、施設へ必ず連絡を入れることを徹底する。

尚、発熱症状が認められる場合には、出勤を行わないことを徹底すること。

※起床後、体調がすぐれない場合等には必ず検温を行うこととする。発熱があった場合は上記の対応とする

(Vol.768 令和2年2月24日厚生労働省老健局

介護保険最新所情報1(2))

(Vol.769 令和2年2月24日厚生労働省老健局

介護保険最新所情報 別紙1)

### ② 出勤時

基本、出勤時はマスクを着用して通勤を行う。特に公共交通機関を使用し通勤する職員においては、十分に留意すること。

### ③ 入館時の対応

職員通用口に設置してあるポンプ式消毒液にて、噴霧及び擦り込むように消毒を行う。

### ④ 手洗い・うがい

所属部署への移動前並びに着替えを行う前に、1階トイレにて手洗い及びうがいの実施を必ず行う。

### ⑤ 出勤前の体温の記入

共有フォルダ)内「シフト」を複写し、コロナ検温用のシフトを作成しています。自宅で測定した数値を、各勤務部署の勤務シフト下段に各自入力して下さい。

氏名		日							
研究員	予定	研	出	出	休	出	休		
	実施	36.2							
職員	予定								
	実施								
	予定	休	出	出	出	出	休		

• 自宅で測定した数値を記入して下さい。

• 目的は、体調把握及び罹患時の後追いにて使用します。記入忘れのない様に。

ケアポート板橋は、『週刊ポスト 3月13日号』で感染症対策が万全の施設として紹介されました。記事の中では、同施設のTQM活動についても触れられています。ケアポート板橋に限らず各病院・施設が独自のマニュアルを作成していることも、今まで健育会グループが力を入れて取り組んできたTQM活動の波及効果の一つだと考えています。

【緊急警告レポート】

# ついに介護施設職員に「新型コロナウイルス」感染者が！ 施設内「感染リスク」の高い 危ない老人ホーム

## その見分け方

「入り口」「トイレ」「ゴミ箱」「加湿器」  
——ここを必ずチェックしよう！



定員100人超の特別養護老人ホームでは、スタッフが感染リスクを抑制(写真:ケアポート板橋) ●撮影:大塚森義

### 感染したら重篤化のリスク

介護が必要になった親のために老人ホームを探す際、ケアの質や費用に加え、これからは「感染症対策」が万全か否かが見極めの大きなポイントとなる。感染が拡大する新型コロナウイルスももちろんのこと、インフルエンザや食中毒など、免疫力が低下した高齢の同居者にとってはウイルスや細菌感染が命取りになることが少なくない。チェックポイントを、専門家とともに検証した。

2月下旬、都内の介護老人保健施設で送迎車の運転を担当する60代男性職員の新型コロナウイルス感染が確認された。食事や入浴、排泄介助など、高齢者施設では介護スタッフと利用者の距離が近く、感染のリスクは日常のあらゆる場所と場面に存在する。

新型コロナウイルスの流行を受け、家族を含め面会者の入館を全面的に中止する施設も増えてきた。都内に複数の介護・福祉施設を運営する社会福祉法人・善光会(東京都大田区)では1月末に、面会などによる来館を原則禁止とした。

介護以外の業務を担うスタッフも外部との接触を避けるため、業務にテレビ電話(スカイプ)を使うなどの徹底ぶりだ。今回の取材もスカイプを介して行なわれた。ただ当然ながら、介護スタッフと利用者の接触をゼロにすることは不可能だ。

コロナウイルスだけではなく、介護付有料老人ホームや特別養護老人ホームなどの施設では、インフルエンザやロウウイルス、疥癬、結核など様々な感染症を原因とした重篤な事例が毎年のように

●末並俊司(介護ジャーナリスト)

134

### 石鹸は固形か液体か

東京都板橋区の特別養護老人ホーム「ケアポート板橋」に、スタッフが「丸」となり、質の高い医療・ケアサービスを提供している。施設は「TQM(総合的品質管理)活動」に定評のある施設だ。

玄関の自動ドアを抜ける際、「手洗い」が「1」と「マスクの着用」を促す注意書きのホワイトボードに迎えられた。テールには非接触型体温計と、米籍者の氏名、入館時刻を書き込むチェックシートが置かれている。「入居者の家族をはじめ、すべての来館者にスタッフと同等レベルの感染症対策に協力いただくため、すべての来館者にマスクと同様のレベルの感染症対策に協力いただくため、手洗いやうがい、マスク

週刊ポスト

「キッチンも見学を」  
食べ物を扱うキッチンが併設されたオープンスペースも重要なチェックポイントだ。  
現在、老人ホームの主流は「キッチンも見学を」

「キッチンも見学を」  
食べ物を扱うキッチンが併設されたオープンスペースも重要なチェックポイントだ。現在、老人ホームの主流は「キッチンも見学を」

「キッチンも見学を」  
食べ物を扱うキッチンが併設されたオープンスペースも重要なチェックポイントだ。現在、老人ホームの主流は「キッチンも見学を」



ケアポート板橋の宇津木忠施設長

「キッチンも見学を」  
食べ物を扱うキッチンが併設されたオープンスペースも重要なチェックポイントだ。現在、老人ホームの主流は「キッチンも見学を」

「キッチンも見学を」  
食べ物を扱うキッチンが併設されたオープンスペースも重要なチェックポイントだ。現在、老人ホームの主流は「キッチンも見学を」

週刊ポスト



外部とのやりとりをテレビ電話で行なう施設も

「キッチンも見学を」  
食べ物を扱うキッチンが併設されたオープンスペースも重要なチェックポイントだ。現在、老人ホームの主流は「キッチンも見学を」

「キッチンも見学を」  
食べ物を扱うキッチンが併設されたオープンスペースも重要なチェックポイントだ。現在、老人ホームの主流は「キッチンも見学を」

「キッチンも見学を」  
食べ物を扱うキッチンが併設されたオープンスペースも重要なチェックポイントだ。現在、老人ホームの主流は「キッチンも見学を」

「キッチンも見学を」  
食べ物を扱うキッチンが併設されたオープンスペースも重要なチェックポイントだ。現在、老人ホームの主流は「キッチンも見学を」

一度作成したマニュアルは、施設や地域の状況に応じて、常に更新していくことも忘れてはいけません。さらに我々を含めた医療従事者には、感染症対策の最前線に立つ者としての覚悟も求められています。予防はもちろん、有事の際に慌てず対応するためには、マニュアルに加えて普段からそうした心構えも大切です。我々には、一般人には無い知識と経験があります。これらを十分に生かして、油断することなく粛々と新型コロナウイルス対策に臨んでほしいと思います。